常葉大学外国語学部紀要〈報告〉
第37号　　2021.3.　　97頁～ 117頁

# 短期型授業外自主学習プロジェクトのための教材精選の試み
## －英語科教育法受講のための予備知識獲得を目指して－

佐野富士子，新妻　明子

# Selecting materials for short-term extra-curricular study projects
## － Topic preparation for English language teacher education －

SANO Fujiko, NIIZUMA Akiko

2020 年 11 月 6 日受理

**抄　　録**

英語教職課程の充実のため、2 年生教職課程の学生には授業外自主学習プログラムを提供してきた。目的は 1) 専門科目（英語科教育 I, II）の予備知識を提供するため、2) 学生の自主性を育てるためである。2017 年度の試行を経て、2018 年度、2019 年度には学生から好評を得ていたため、2020 年度も同様に実施する予定であったが、コロナ禍のため実施できないままであった。しかしながら、後期だけでも実施すれば、2020 年度も工夫次第で、前年度に近い効果が出るのではないかと考え、試行することになった。その準備として、教材の数を半分に絞り込む作業を行った。2020 年度の 3 年生と 4 年生に協力してもらい、学生目線で教材を絞り込んでもらった。本稿では学生が選んだ DVD18 巻と図書 48 冊を短期型プロジェクト用として示し、なぜ学生たちはそれらの教材を有益と判断したかを探る。学生が選んだ教材を使用した 2020 年度後期のプロジェクトの成果については、時期を改め、別の論文で報告する。

キーワード：英語科教育法、予備知識、自主性、教材、意識

## 1．はじめに

本学英米語学科の多くの新入生にとって、英語科教員になることは一度は考えた将来の夢であり、毎年 1 年生のエントリーガイダンスには多くの学生が集まる。生徒から学生になって間もない時期ではあるが、大学へ入学した目的を振り返り、具体的かつ客観的に自分の将来について考える時期でもある。ところが、本学では 2 年次に英語科教育関連科目が開講されていないため、1 年次の終わりに教職科目履修を認めら

本研究は常葉大学 2020 年度授業改善共同研究助成を受けて実施した。

れた学生であっても、2年次になってすぐに英語科教職科目がスタートするわけではないので、学生から英語科教員になるという将来に向けての方向付けが明確にならないまま1年間を過ごしてしまうケースがみられた。この問題の解決は容易ではなく、教職科目担当教員側としても人生のスタート地点にいる学生たちと授業を通しての接点がないため、英語科教員になるために2年次のうちにやってほしいことが伝わりにくい状況にあった。英語力を伸ばす教育と支援は学科を挙げて推し進められていて、それは効果が上がっており英語科教員を志望する学生にとっても望ましい環境にあると言える。しかしながら英語科教育の面では、観察実習も実地演習もないため、「生徒に英語力をつける」、そのためには「いかに学ぶ機会を提供していくか」という英語科教員になるという意識の収斂が十分ではない傾向がみられた。そのため、3年次になって英語科教育法の授業が始まった時点で、教員になるという意識の差が学生間で広がっているという問題が明らかになるという状態であった。

そこでこの問題の解決策のひとつとして、英語教育学の初歩を自主的に学ぶプロジェクトを立ち上げた。英語教育学を学んでいない人たちに、英語教師はどのような働きかけをして生徒は英語力を伸ばしているのかを理解してもらうためには、まずは目に見える現象をとらえることが入門として適していると判断し、DVD教材をグループで討議する課題を前期14週間行い、予備知識を得て基礎知識の素地ができたところで入門的な書物を読んで英語教育学の全容をとらえるための素地を養うための課題を後期14週間行うこととし、授業外にグループメンバーで話し合って決めた曜日時間帯で協同学習をスタートさせた。2018年、2019年度は順調に進み、学生の教職への意識が高まり、英語学習意欲も高まり、3年次から始まる専門科目の予習としての役割も果たした。「1年生の時に知らなかった人たちとグループになり良い人間関係ができた」、「グループリーダーを経験して自信がついた」、「4年で教育実習に行く前にもう一度DVDを視聴している」という声も学生から出て、成果は出たと感じていた。実際、プロジェクトを続ける意思のある学生は全員最後までやり通した。課題レポートも、回を追うごとに教師としての視点が育ちつつある内容になり、客観的な立場から模範授業を視聴し、批判的な考え方ができるようになっていった。一方でDVD視聴は学生自身の適性と将来進む方向の整合性を考えるきっかけともなり、教職辞退者が2名出た。早い段階で不一致を見つけることができたことは、学生にとっても学科にとってもよい判断であった。

ところが、2020年度は新型コロナウィルス感染拡大を受け、4月から大学は閉鎖となり、図書館も使えず、したがって英語科教職科目への導入としてのDVD視聴もできず、6月に入って一部で対面授業が始まったものの、対話を伴うグループ活動は差し控えなくてはならない状況にあった。このため、2020年度は授業外自主学習プロジェクトの実施は危ぶまれた。しかしながら、授業改善のための学内共同研究プロジェクトとして認められたため、自主学習プロジェクトの開始は遅れて後期のみの取り組みとなったものの、期間は短くても2倍の実施期間で得られた成果にどのくらい近づけることができるか検証することになった。

そのため、通常のやり方では授業外自主学習プロジェクトの継続は難しいと判断し、(1) 実施期間を 1 年から半年に縮小、(2) 使用教材を半減、(3) グループ活動の場を図書館学習スペースから Teams を使ったオンラインミーティングへ変更、(4) 課題提出も、紙を教員の研究室へ持参する方式から、Teams にファイルをアップロードする方式へと転換した。この新しい方式による授業外自主学習プロジェクトがどの程度効果を発揮するのかは、14 週間の実施期間が終わって 3 年次で専門科目を受講し始めてからでないと答えは出ない。したがって、本稿では、半期 14 週間で使う教材として、授業外自主学習プロジェクトを経験した学生は学生目線からどれを選ぶかを調査することを目的とする。

## 2. 方法

### 2.1 参加者

2018 年度 2 年生（現 4 年生で英語科教育法 III 履修生）14 名、2019 年度 2 年生（現 3 年生で英語科教育法 I 履修生）21 名、合計 35 名を対象に 2020 年 6 ～ 7 月にアンケート調査を行った。2018 年度 2 年生は 2 年次には 22 名いたが、 4 年生になる時点で 4 年次の英語科教育法 III, IV を履修しておらず、これは進路変更によるものなので、本研究のデータの信頼性を確保するために、 4 年次になるまで進路を変更しなかった 14 名を対象とした。

### 2.2 データ収集ツール

Forms を利用したアンケートでは、それぞれの学年の学生を対象に DVD と図書のリストを使用して、役に立ったと思ったもの、興味深かったものを選択してもらった。これらのリストは 2018 年度、2019 年度に授業外自主学習プロジェクトのために学生に配布したリストである。DVD リストは 2018 年 4 月からの利用に備えて、英語科教育法 I ～ IV を担当する本研究の第 1 著者が本学図書館所蔵の DVD の中から、これからの英語教育に必要だと思われるトピックから吟味して 54 巻のリストを 2017 年に作成した。2019 年度プロジェクトには DVD リストはそのまま使用した。

図書リストは 2018 年に当該年度プロジェクト参加者に 2018 年度版を、2019 年度に当該年度プロジェクト参加者には 2019 年度版を使用した。2018 年度版は、本研究第 1 著者が数多くの専門書の中から学生に読ませたいと思う図書を吟味して作成した 60 冊以上のリストである。学生に配布したリストにはプロジェクト用の 60 冊以外に、卒論のトピックを見つけるための図書や統計の基礎を学ぶための入門書も加えてあったが、本研究のデータ収集のためにはプロジェクトの基本になる 60 冊のみ使用した。2019 年度版は、新たに刊行された図書と入れ替えて改訂版図書リストとして作成し、それを使用したプロジェクトを実施した。2018 年度と同様に、卒論のトピックを見つけるための図書と統計を学ぶための図書をさらに充実させ、教員を目指す学生に勧める 100 冊のリストにして配布して、幅広い自主学習を促した（佐野・小田，2019）。しかし、2018 年度版と同様、本研究のデータ収集ツールとしては、 2 年生の時点で

読むことを勧めた 60 冊のリストのみを使用した。

このようにしてデータ収集ツールとしての DVD リスト、図書リストを使用し、学生の目線で役立った教材、興味深かった教材、他の人にも是非利用してもらいたいと思うような教材を選んでもらった。実際に調査に使ったアンケートは付録 1 に記載する。

### 2.3 手順

2020 年度は 2018 ～ 2019 年度と違って後期のみの実施となるため、使用する教材も厳選する必要があった。そのため、オンライン・アンケートにより、学生目線で役立った、興味深かった、下級生に是非利用してもらいたいと思うような教材を選んでもらい、2020 年度に使う学習教材精選の基礎資料とした。選択作業は次の手順の通りである。実際のアンケート質問項目は付録 1 に示す。

1） Forms を使って、学生が特に役立った、興味深かったと思った DVD を選択
2） 上位の DVD からテーマごとに 3 巻ずつグループ分けして 6 週間分のリストを作成
3） 図書についても Forms を使って学生が読んで特に役に立った、興味深かったと思った図書全てを選択
4） 得られた結果の上位からテーマごとに 3 冊ずつグループ分けして 8 週間（16 テーマ）の図書リストを作成。

### 2.3 分析方法

上記の収集手順で得られた回答は、素数を百分率に換えて表した。回答者数が 2018 年度と 2019 年度とで異なる点に加え、図書リストの内容も両年度で新刊の入れ替えによる若干の異なりがあるためである。3 年生、4 年生でそれぞれに上位リストを作成し、それを合わせたリストを百分率の高い順に並べ、2020 年度プロジェクトの DVD リストと図書リスト作成の基礎データとした。

## 3．結果

### 3.1 DVD の精選

Forms で回収したデータを基に 2020 年度用に DVD 54 巻から上位 18 巻（3 巻× 6 週間）を選ぶにあたり、アンケートの結果を回答の多い順に並べた。詳細は付録 2 に示す。回答は 3 年生全員（21 名）が回答したが、4 年生は教育実習の時期とも重なり、回答者数、回答数とも少なかったので、サンプルとして小さいため信頼性に欠けると判断し、本研究では 3 年生の回答のみを分析の対象とした。付録 2 に示した教材 28 巻をトピック別に分類して、付録 3 に示すように 2020 年度の短期型授業外自主学習プロジェクトの DVD リスト（3 巻× 6 週間）を作成し、2020 年度 14 週間のうちの 6 週間分のリストが完成した。

### 3.2 図書の精選

2020 年度用の図書リストは 8 週間かけて取り組むためのリストを作成する必要があった。自主性を重んじるプロジェクトであるので、8 週間分のみのリストより多くの選択肢を残したかったため、48 冊（16 トピック × 3 冊）を選ぶことを目標に、2018 年度版利用者が選んだ図書リスト、2019 年度版利用者が選択した図書に関わるアンケートの結果をそれぞれの年度で回答の多い順に並べた。付録 4 は 4 年生（2018 年度リスト利用者）が選んだ図書 50 冊のリスト、付録 5 は 3 年生（2019 年度リスト利用者）が選んだ図書のリストである。前述の通り、それぞれの年度で回答者の数が異なるため、単純に 2 つの表を合体させることはできないため、それぞれの表で示す百分率の多い順に並べ（付録 6 参照）、さらにトピック別に 3 冊ずつまとめて分類したリストを 2020 年度版図書リストとして作成した。付録 7 に示す。

## 4．考察

DVD は教員の立場から授業を見ることが未経験な学生に取り組ませる教材としては、効果を発揮したと考えられる。学生のグループ討議が活発に行われたことからもそれを窺い知ることができる。しかし、なぜその DVD や図書が役立った、または興味深かったと考えたのかについてデータとして示すためには、授業外自主学習プロジェクトで毎週提出されたレポートを詳細にわたって分析しなくては明確なことは言えないかもしれない。

図書リストについては、トピックが 2018 ～ 2019 年度は 14 週間分に止まらず、選択の余地を多くして学生の興味と関心に応じて自主的に取り組ませることに重きを置いた。そのため、アンケート回答者が全ての図書に取り組んだわけではないので、グループにより、取り組むトピックに偏りがみられ、それがアンケート集計結果にも影響していた。授業外自主学習は 2 年次後期の最終週を除く 14 週で実施しているため、期間に合わせて 14 のトピックに絞り込むことがいいのか、文部科学省のコアカリキュラムに示されている 30 を超えるトピックに少しでも対応した予備知識をつけさせることがいいのかは、今後のさらなる研究の分析結果を待ちたい。特に図書については、教員目線で専門的な観点から選択した 100 冊を使って通年にわたって実践して得られた効果と同じくらいの効果が得られるのか、短期プロジェクトの終了時期にアンケートを実施し、これまで収集してきたデータと合わせて総合的に分析を深めたい。

自主性の育成についても、グループによってどのトピックから始めるのか、いつどこで集まってグループ討議を行うのか、グループリーダーをどのように交代するのかなどについて学生の話し合いに任せるところをできる限り多くした。学生の満足感、達成感を増大させるためである。この点についても、詳細は毎週提出されたグループ協議レポートの分析を待たねばならないが、本調査により、実際に学生が感じている満足度と理解度を数値で示す試みができた。今後の授業改善のために何ができるかをさらに深く探ることが必要であろう。

## 5．結論

本調査の結果、2020 年度の短期型授業外自主学習プロジェクトの材料は作成できたので、一定の目的を達成することができた。2020 年度の 2 年生 14 名はすでに完成した 2 つのリストを活用しており、DVD 視聴を終え、図書講読とグループ討議に取り掛かっている。毎週欠かさず個人レポートとグループレポートをアップロードし、本稿の第 2 著者が毎週フィードバックを返し、 2 年生の成長を感じている。

本稿では研究の一部である調査結果のみの提示となったが、研究の目的である短期型授業外自主学習プロジェクト遂行のための DVD リストと図書リスト作成は、形あるものとして完成することができた。教員が専門的観点から作成したリストから、学生が実際に取り組んで自分たちの理解度や満足度からさらに絞り込んだリストが作成できた。自主学習プロジェクトといっても、完全に自主性に任せてしまうと、専門科目の知識がまだ入っていない段階の学生には、判断に迷うところであるので、ある程度の方向性を示して、その中での自由選択をさせた点が今後の履修生にさらに役立つリストができたと考える。よって、今後の授業に向けての予備知識を構築しつつあるので、今後の授業改善につながりつつあるといえよう。

## 6　今後に向けて

本稿ではアンケートで得られた量的データのみ示した。量的データは数字で表されるため、客観的データのように見えるが、リストに挙げた DVD や図書の全てを授業外自主学習プロジェクトで取り組んだわけではないことに注意し、今後、分析を深めていきたい。また、回答者がなぜそれらの DVD や図書を選択したかという質的データについては、機会を改めて報告する。2018 ～ 2019 年度の 2 年間にわたる授業外自主学習プロジェクトの成果と影響についても、別途、報告する。2018 ～ 2019 年度の取り組みを観察していると、学生の意識が次第に英語科教員としての自覚が芽生えてくるのがわかるので、何が自覚と動機を高めているのかについて、機会を改めて報告する。

## 引用文献

佐野富士子・小田寛人（編）(2019)『授業力アップのための英語教師必携自己啓発マニュアル』開拓社

付録 1

アンケートの質問項目

(1) 3 年生対象

教職 3 年生のみなさま

今年の 2 年生はコロナ禍の影響で、2 年生の教職プロジェクトをまだ取りかかっておりません。残された秋学期を有効活用するため、皆さまの経験者としてのご協力がとても役立ちます。ご協力をお願いします。

2 年生の教職プロジェクトで学んだ本や DVD について、それぞれのトピックにおいて非常に役に立ったと思うものをすべて選んでください。

設問 2 以降、トピックごとに 4 冊の本が列挙されています。「この本は役に立った、興味深かった」と思うものすべてを選んでください。

(2) 4 年生対象

4 年生のみなさまへ

アンケートのお願い：

2 年生の時の授業外自主学習プロジェクト（みんなで受かろう会）について

本学に 2 年次に英語科教育の科目がないことの対策として、2 年次前期・後期で、DVD を視聴したり図書を読んだりする授業外プロジェクトに取り組みました。その成果が 3 年次からの英語科教育法の授業理解につながっていますが、学生の皆様から見たご意見を聞かせていただきたく、以下、アンケートにご協力をお願いします。

以下の各テーマでよいと思うものすべてを選択してください。

最後にご意見を自由記述で書いてください。

DVD については 2 年生の時にアンケートを実施しましたが、DVD について書きたいことがあったら是非最後の回答欄にお願いします。

付録 2

3 年生 (n=21) が選んだ DVD 上位 28 巻

| タイトル | 人数 | % |
|---|---|---|
| 自己表現：自分を伝える＆友達を知る | 11 | 52.38 |
| 話すこと | 11 | 52.38 |
| 聞くこと | 8 | 38.10 |
| ペアワークを取り入れた授業実践 | 8 | 38.10 |
| 英語でディスカッション／グループでのプレゼン作り | 8 | 38.10 |
| 授業の組み立て方 | 7 | 33.33 |
| 英語を英語のまま教える授業実践と学習形態 | 6 | 28.57 |
| ALT とのティーム・ティーチング | 6 | 28.57 |

| | | |
|---|---|---|
| 読むこと | 6 | 28.57 |
| 青野保先生の授業：授業の流れに沿った言語活動の展開 1 | 6 | 28.57 |
| 広島市立早稲田中学校 part-4：4 技能統合型言語活動と協同学習：Discussion に挑戦 | 6 | 28.57 |
| 書くこと | 5 | 23.81 |
| 繰り返しのテクニック | 5 | 23.81 |
| 田尻悟郎先生の授業：中学生指導のアイディア集 1, 2 | 5 | 23.81 |
| 青野保先生の授業：授業の流れに沿った言語活動の展開 2 | 5 | 23.81 |
| さまざまな活動 | 5 | 23.81 |
| スピーキングの指導とその評価 2：中学校編 2 | 5 | 23.81 |
| スピーキングの指導とその評価 3：高校編 1 | 5 | 23.81 |
| 視聴覚機器 | 5 | 23.81 |
| 視聴補助教具 | 5 | 23.81 |
| ICT を活用した Communication English：授業の進め方から教材づくりのヒントまで | 5 | 23.81 |
| コミュニケーションタスクを支える下地作り | 4 | 19.05 |
| 広島市立早稲田中学校 part-3：4 技能統合型言語活動と協同学習 : Skit performance | 4 | 19.05 |
| 広島市立早稲田中学校公開研究会公開授業： 4 技能の統合的活用と自律的学習者 | 4 | 19.05 |
| 板書 | 4 | 19.05 |
| スピーキングの指導とその評価 1：中学校編 1 | 4 | 19.05 |
| 基礎力の定着をはかる授業のすすめ方 | 4 | 19.05 |
| 文字指導・発音指導 | 4 | 19.05 |

付録 3

トピックごとに分類した 2020 年度 6 週間の DVD 視聴のためのリスト

| | |
|---|---|
| 1 | 高橋映里子（授業者）(2010).「自己表現～自分を伝える＆友達を知る～」DVD. ジャパンライム . |
| | 新城美佳（授業者）(2014).「ペアワークを取り入れた授業実践」DVD. ジャパンライム . |
| | 山本良一（授業者）(2007).「さまざまな活動」DVD. ジャパンライム . |

| | |
|---|---|
| 2 | 高橋奈穂美（授業者）(2006).「『話すこと』」DVD. ジャパンライム . |
| | 吉田章人（授業者）(2006).「『聞くこと』」DVD. ジャパンライム . |
| | 四方雅之（授業者）(2006).「『読むこと』」DVD. ジャパンライム . |
| | 山本良一（授業者）(2006).「『書くこと』」DVD. ジャパンライム . |
| 3 | 金谷 憲（監修）(2007).「スピーキングの指導とその評価 全 4 枚セット :1 中学校編 1」DVD. ジャパンライム . |
| | 金谷 憲（監修）(2007).「スピーキングの指導とその評価 全 4 枚セット : 2 中学校編 2」DVD. ジャパンライム . |
| | 金谷 憲（監修）(2007).「スピーキングの指導とその評価　全 4 枚セット :3 高校編 1」DVD. ジャパンライム . |
| 4 | 田中十督（授業者）, 英語教育•達人セミナー（企画協力）(2016).「【第 2 巻】英語でディスカッション／グループでのプレゼン作り」DVD. ジャパンライム . |
| | 四方雅之（授業者）(2007).「ALT とのティーム•ティーチング」DVD. ジャパンライム . |
| | 田中十督（授業者）, 英語教育・達人セミナー（企画協力）(2016).「英語を英語のまま」授業づくり～ 英語力を一人でも高めていける授業実践 ～全 2 巻【第 1 巻】英語を英語のまま教える授業実践と学習形態 DVD. ジャパンライム . |
| 5 | 淡路佳昌（授業者）(2007).「視聴覚機器」DVD. ジャパンライム . |
| | 渡部正実（授業者）(2017).「【第 1 巻】ICT を活用した Communication English : 授業の進め方から教材づくりのヒントまで」DVD. ジャパンライム . |
| | 山崎 勝（授業者）(2007).「板書」DVD. ジャパンライム株式会社 . |
| 6 | 胡子美由紀（授業者）(2014).「―ライブ版英語授業シリーズ―広島市立早稲田中学校 Part-3 4 技能統合型言語活動と協同学習を通しての英語活用力育成～ Skit Performance に挑戦！～」DVD. ジャパンライム . |
| | 胡子美由紀（授業者）(2014).「広島市立早稲田中学校 Part-4 4 技能統合型言語活動と協同学習を通しての英語活用力・コミュニケーション力育成～ Discussion に挑戦！～」DVD. ジャパンライム . |
| | 胡子美由紀（授業者）(2013).「―ライブ版英語授業シリーズ―広島市立早稲田中学校公開研究会　公開授業 2　4 技能の統合的活用と自律的学習者の育成」DVD. ジャパンライム . |

付録 4

4 年生（2018 年度版リスト利用者）が選んだ図書上位 50 冊

| 順位 | 書籍（4 年生）14 名 | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』 | 8 | 57.14 |
| 2 | 『第二言語習得－ SLA 研究と外国語教育』 | 7 | 50.00 |
| 3 | 『テストだけでは測れない！ 人を伸ばす「評価」とは』 | 6 | 42.86 |
| 4 | 『子どもが英語につまずくとき―学校英語への提言』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『自己調整学習と動機づけ』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『言語学習と学習ストラテジー』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『大学生のためのアカデミック英文ライティング』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『インタラクティブな英語リーディングの指導』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『英語語彙指導ハンドブック』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『実践音声学入門』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『英語スピーキング指導ハンドブック』 | 5 | 35.71 |
| 4 | 『英語学習は早いほど良いのか』 | 5 | 35.71 |
| 14 | 『学習意欲の理論：動機づけの教育心理学』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『言語学習ストラテジー：外国語教師が知っておかなければならないこと』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『英語を学ぶ人・教える人のために―「話せる」メカニズム―』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『英語リーディングの科学－「読めたつもり」の謎を解く』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『英語語彙の指導マニュアル』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』 | 4 | 28.57 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る―正しい問題作成への英語授業学的アプローチ』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『20 ステップで学ぶ　日本人だからこそできる英語プレゼンテーション』 | 4 | 28.57 |
| 14 | 『小学校での英語教育は必要か』 | 4 | 28.57 |
| 25 | 『フィードバック研究への招待』 | 3 | 21.42 |
| 25 | 『英語語彙指導の実践アイディア集―活動例からテスト作成まで』 | 3 | 21.42 |
| 25 | 『英文法指導 Q&A―こんなふうに教えてみよう』 | 3 | 21.42 |
| 25 | 『社会言語学入門：生きた言葉のおもしろさに迫る（改訂版）』 | 3 | 21.42 |
| 25 | 『話題源英語・心を揺する楽しい授業』 | 3 | 21.42 |
| 25 | 『小学校での英語教育は必要ない』 | 3 | 21.42 |
| 25 | 『英語教師のための教育データ分析入門』 | 3 | 21.42 |
| 25 | 『外国語教育研究ハンドブック』 | 3 | 21.42 |
| 33 | 『英語学習のメカニズム―第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『外国語学習に成功する人、しない人』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『自己調整学習ハンドブック』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『より良い外国語学習法を求めて：外国語学習成功者の研究』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『第二言語理解の認知メカニズム－英語の書きことばの処理と音韻の役割』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『英語リーディングの認知メカニズム』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『英文読解のストラテジー』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『日本人 1200 人の英語スピーキングコーパス』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『コミュニカティブな英語教育を考える』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『英語の文字・綴り・発音のしくみ』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『改訂新版　初級　英語音声学 CD 付』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『プラグマティクス・ワークショップ：身の回りの言葉を語用論的に見る』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『実践 言語テスト作成法』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『現場で使える教室英語』 | 2 | 14.29 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 33 | 『科目別　現場で使える教室英語』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門』 | 2 | 14.29 |
| 33 | 『英語教師のための Excel 活用法』 | 2 | 14.29 |
| 50 | 『現代英語教授法総覧』 | 1 | 7.14 |

付録 5

3 年生（2019 年度版リスト利用者）が選んだ図書上位 52 冊

| 順位 | 書籍（3 年生）21 名 | 回答数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 『動機づけを高める英語指導ストラテジー 35』 | 16 | 76.19 |
| 2 | 『英語学習のメカニズム―第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』 | 14 | 66.67 |
| 3 | 『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』 | 13 | 61.90 |
| 4 | 『メタ認知で＜学ぶ力＞を高める：認知心理学が解き明かす効果的学習法』 | 12 | 57.14 |
| 5 | 『英語教師のための文法指導デザイン』 | 11 | 52.38 |
| 6 | 『コミュニカティブな英語教育を考える』 | 10 | 47.62 |
| 6 | 『英語スピーキング指導ハンドブック』 | 10 | 47.62 |
| 6 | 『英文法指導 Q&A―こんなふうに教えてみよう』 | 10 | 47.62 |
| 6 | 『英語のテストはこう作る』 | 10 | 47.62 |
| 10 | 『英語語彙指導ハンドブック』 | 9 | 42.86 |
| 10 | 『テストだけでは測れない！ 人を伸ばす「評価」とは』 | 9 | 42.86 |
| 12 | 『発音の教科書―日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 | 8 | 38.10 |
| 12 | 『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る―正しい問題作成への英語授業学的アプローチ』 | 8 | 38.10 |
| 12 | 『英語 4 技能テストの選び方と使い方―妥当性の観点から』 | 8 | 38.10 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 12 | 『現場で使える教室英語』 | 8 | 38.10 |
| 12 | 『20 ステップで学ぶ　日本人だからこそできる英語プレゼンテーション』 | 8 | 38.10 |
| 12 | 『英語学習は早いほど良いのか』 | 8 | 38.10 |
| 12 | 『外国語教育研究ハンドブック（改訂版）―研究手法のより良い理解のために』 | 8 | 38.10 |
| 19 | 『より良い外国語学習法を求めて：外国語学習成功者の研究』 | 7 | 33.33 |
| 19 | 『インタラクティブな英語リーディングの指導』 | 7 | 33.33 |
| 19 | 『英語リーディングの認知メカニズム』 | 7 | 33.33 |
| 19 | 『英単語学習の科学』 | 7 | 33.33 |
| 19 | 『相手と場面で使い分ける　英語表現ハンドブック』 | 7 | 33.33 |
| 24 | 『「達人」の英語学習法―データが語る効果的な外国語習得法とは』 | 6 | 28.57 |
| 24 | 『英文読解のストラテジー』 | 6 | 28.57 |
| 24 | 『新しい英文作成法』 | 6 | 28.57 |
| 24 | 『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』 | 6 | 28.57 |
| 24 | 『英語教育のアクション・リサーチ』 | 6 | 28.57 |
| 24 | 『言語研究のための統計入門』 | 6 | 28.57 |
| 30 | 『現代英語教授法総覧』 | 5 | 23.81 |
| 30 | 『第二言語習得と英語科教育法』 | 5 | 23.81 |
| 30 | 『21 世紀の学習者と教育の 4 つの次元：知識，スキル，人間性，そしてメタ学習』 | 5 | 23.81 |
| 30 | 『英語リーディングの科学－「読めたつもり」の謎を解く』 | 5 | 23.81 |
| 30 | *The Elements of Style (4th ed.).* | 5 | 23.81 |
| 30 | 『技術英文　効果的に伝える 10 のレトリック―テクニカル・ライティング練習帳』 | 5 | 23.81 |
| 30 | 『最強の英語発音ジム―「通じる発音」と「聞き取れる耳」をモノにする』 | 5 | 23.81 |
| 30 | 『社会言語学入門：生きた言葉のおもしろさに迫る（改訂版）』 | 5 | 23.81 |
| 30 | 『小学校外国語活動の進め方―「ことばの教育」として』 | 5 | 23.81 |
| 30 | 『小学校からの英語教育をどうするか』 | 5 | 23.81 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 30 | 『外国語教育学のための質問紙調査入門―作成・実施・データ処理』 | 5 | 23.81 |
| 41 | 『フィードバック研究への招待』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『外国語学習とコミュニケーションの心理―研究と教育の視点』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『学習方略の心理学：賢い学習者の育て方』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『英語コーパスと言語教育―データとしてのテクスト』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『英文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』 | 4 | 19.05 |
| 41 | *English Grammar in Use.* | 4 | 19.05 |
| 41 | 『コミュニケーションのための英語音声学研究』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『実践 言語テスト作成法』 | 4 | 19.05 |
| 41 | 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門』 | 4 | 19.05 |
| 52 | 『Q&A 高校英語指導法辞典』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『自己調整学習ハンドブック』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『リスニングとスピーキングの理論と実践』(英語教育学大系第 9 巻) | 3 | 14.29 |
| 52 | 『英語教員のためのスピーキングテスト―理論と実践―』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『英語語彙指導の実践アイディア集―活動例からテスト作成まで』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『ビジュアル音声学』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『語用論入門―話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『言語テストの作成と評価―あたらしい外国語教育のために』 | 3 | 14.29 |
| 52 | 『外国語教育リサーチマニュアル』 | 3 | 14.29 |

付録 6
3 ～ 4 年生が選んだ図書上位 68 冊

| 書名 | 人数 | 母数 | % |
|---|---|---|---|
| 『動機づけを高める英語指導ストラテジー 35』 | 16 | /21 | 76.19 |
| 『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』 | 21 | /35 | 60.00 |
| 『メタ認知で＜学ぶ力＞を高める：認知心理学が解き明かす効果的学習法』 | 12 | /21 | 57.14 |
| 『英語教師のための文法指導デザイン』 | 11 | /21 | 52.38 |
| 『第二言語習得－ SLA 研究と外国語教育』 | 7 | /14 | 50.00 |
| 『英語のテストはこう作る』 | 10 | /21 | 47.62 |
| 『英語学習のメカニズム―第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』 | 16 | /35 | 45.71 |
| 『テストだけでは測れない！ 人を伸ばす「評価」とは』 | 15 | /35 | 42.86 |
| 『英語スピーキング指導ハンドブック』 | 15 | /35 | 42.86 |
| 『英語語彙指導ハンドブック』 | 14 | /35 | 40.00 |
| 『現場で使える教室英語』 | 8 | /21 | 38.10 |
| 『英語 4 技能テストの選び方と使い方―妥当性の観点から』 | 8 | /21 | 38.10 |
| 『発音の教科書―日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 | 8 | /21 | 38.10 |
| 『英語学習は早いほど良いのか』 | 13 | /35 | 37.14 |
| 『英文法指導 Q&A―こんなふうに教えてみよう』 | 13 | /35 | 37.14 |
| 『実践音声学入門』 | 5 | /14 | 35.71 |
| 『自己調整学習と動機づけ』 | 5 | /14 | 35.71 |
| 『言語学習と学習ストラテジー』 | 5 | /14 | 35.71 |
| 『大学生のためのアカデミック英文ライティング』 | 5 | /14 | 35.71 |
| 『子どもが英語につまずくとき―学校英語への提言』 | 5 | /14 | 35.71 |
| 『インタラクティブな英語リーディングの指導』 | 12 | /35 | 34.29 |
| 『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る―正しい問題作成への英語授業学的アプローチ』 | 12 | /35 | 34.29 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 『コミュニカティブな英語教育を考える』 | 12 | /35 | 34.29 |
| 『20 ステップで学ぶ　日本人だからこそできる英語プレゼンテーション』 | 12 | /35 | 34.29 |
| 『相手と場面で使い分ける　英語表現ハンドブック』 | 7 | /21 | 33.33 |
| 『英単語学習の科学』 | 7 | /21 | 33.33 |
| 『外国語教育研究ハンドブック』松柏社 | 11 | /35 | 31.43 |
| 『英語教育のアクション・リサーチ』 | 6 | /21 | 28.57 |
| 『英語を学ぶ人・教える人のために―「話せる」メカニズム―』 | 4 | /14 | 28.57 |
| 『学習意欲の理論：動機づけの教育心理学』 | 4 | /14 | 28.57 |
| 『言語研究のための統計入門』 | 6 | /21 | 28.57 |
| 『「達人」の英語学習法―データが語る効果的な外国語習得法とは』 | 6 | /21 | 28.57 |
| 『新しい英文作成法』 | 6 | /21 | 28.57 |
| 『20 ステップで学ぶ　日本人だからこそできる英語プレゼンテーション』 | 4 | /14 | 28.57 |
| 『英語語彙の指導マニュアル』 | 4 | /14 | 28.57 |
| 『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』 | 10 | /35 | 28.57 |
| 『英語リーディングの科学－「読めたつもり」の謎を解く』 | 9 | /35 | 25.71 |
| 『より良い外国語学習法を求めて：外国語学習成功者の研究』 | 9 | /35 | 25.71 |
| 『英語リーディングの認知メカニズム』 | 9 | /35 | 25.71 |
| 『21 世紀の学習者と教育の 4 つの次元：知識，スキル，人間性，そしてメタ学習』 | 5 | /21 | 23.81 |
| 『第二言語習得と英語科教育法』 | 5 | /21 | 23.81 |
| *The Elements of Style* (4th ed.) | 5 | /21 | 23.81 |
| 『外国語教育学のための質問紙調査入門―作成・実施・データ処理』 | 5 | /21 | 23.81 |
| 『小学校外国語活動の進め方―「ことばの教育」として』 | 5 | /21 | 23.81 |
| 『最強の英語発音ジム―「通じる発音」と「聞き取れる耳」をモノにする』 | 5 | /21 | 23.81 |
| 『技術英文　効果的に伝える 10 のレトリック―テクニカル・ライティング練習帳』 | 5 | /21 | 23.81 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 『小学校からの英語教育をどうするか』 | 5 | /21 | 23.81 |
| 『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』 | 8 | /35 | 22.86 |
| 『英文読解のストラテジー』 | 8 | /35 | 22.86 |
| 『社会言語学入門：生きた言葉のおもしろさに迫る（改訂版）』 | 8 | /35 | 22.86 |
| 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』 | 8 | /35 | 22.86 |
| 『話題源英語・心を揺する楽しい授業』 | 3 | /14 | 21.43 |
| 『英語教師のための教育データ分析入門』 | 3 | /14 | 21.43 |
| 『小学校での英語教育は必要ない』 | 3 | /14 | 21.43 |
| 『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』 | 7 | /35 | 20.00 |
| 『フィードバック研究への招待』 | 7 | /35 | 20.00 |
| 『小学校での英語教育は必要か』 | 7 | /35 | 20.00 |
| *English Grammar in Use.* | 4 | /21 | 19.05 |
| 『英文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』 | 4 | /21 | 19.05 |
| 『コミュニケーションのための英語音声学研究』 | 4 | /21 | 19.05 |
| 『英語コーパスと言語教育―データとしてのテクスト』 | 4 | /21 | 19.05 |
| 『学習方略の心理学：賢い学習者の育て方』 | 4 | /21 | 19.05 |
| 『外国語学習とコミュニケーションの心理―研究と教育の視点』 | 4 | /21 | 19.05 |
| 『英語語彙指導の実践アイディア集―活動例からテスト作成まで』 | 6 | /35 | 17.14 |
| 『現代英語教授法総覧』 | 6 | /35 | 17.14 |
| 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門』 | 6 | /35 | 17.14 |
| 『自己調整学習ハンドブック』 | 5 | /35 | 14.29 |

付録 7

2020 年度授業外自主学習プロジェクト図書リスト（48 冊）

| | |
|---|---|
| 1 | 新しい英語教育について学ぶ・考える |
| | 廣森友人（2016）『英語学習のメカニズム―第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店 |
| | 佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子 ( 編著 ) (2011)『第二言語習得－SLA 研究と外国語教育』大修館書店 |
| | JACET SLA 研究会（編著）（2013）『第二言語習得と英語科教育法』 第 1 章など．開拓社 |
| 2 | コミュニカティブな授業を考える |
| | 上智大学 CLT プロジェクト（2014）『コミュニカティブな英語教育を考える』アルク |
| | 田崎清忠（責任編集），佐野富士子（編集コーディネーター）（1995）『現代英語教授法総覧』21 章など．大修館書店 |
| | 八島智子（2019）『外国語学習とコミュニケーションの心理―研究と教育の視点』関西大学出版部 |
| 3 | 言語学習ストラテジーと言語使用ストラテジー |
| | 大学英語教育学会学習ストラテジー研究会（2006）『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』大修館書店 |
| | 竹内理（2003）『より良い外国語学習法を求めて：外国語学習成功者の研究』松柏社 |
| | R. L. オックスフォード（著），宍戸通庸・伴紀子（訳）（1994）『言語学習ストラテジー：外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社 |
| 4 | 動機づけ |
| | D. H. シャンク・B. J. ジマーマン（著），塚野州一他（訳）（2009）『自己調整学習と動機づけ』北大路書房 |
| | 天満美智子 (1982)『子どもが英語につまずくとき―学校英語への提言』研究社出版 |
| | 鹿毛雅治 (2013)『学習意欲の理論：動機づけの教育心理学』金子書房 |

| | |
|---|---|
| 5 | 学習者要因 |
| | 三宮真智子（2018）『メタ認知で＜学ぶ力＞を高める：認知心理学が解き明かす効果的学習法』北大路書房 |
| | 岡田涼・中谷泰之・伊藤崇達・塚野州一（編著）（2016）『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房 |
| | 鹿毛雅治 (2013)『学習意欲の理論：動機づけの教育心理学』金子書房 |
| 6 | スピーキング力の育成 |
| | 泉惠美子・門田修平（2016）『英語スピーキング指導ハンドブック』大修館書店 |
| | 羽藤由美 (2008)『英語を学ぶ人・教える人のために―「話せる」メカニズム―』世界思想社 |
| | JACET SLA 研究会（編著）（2013）『第二言語習得と英語科教育法』 第 17 章「スピーキング」など．開拓社 |
| 7 | リーディング力の育成 |
| | 伊東治巳（2016）『インタラクティブな英語リーディングの指導』研究社 |
| | 門田修平・野呂忠司（2001）『英語リーディングの認知メカニズム』くろしお出版 |
| | 天満美智子（1989）『英文読解のストラテジー』大修館書店 |
| 8 | ライティング力の育成 |
| | 中谷安男（2016）『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店 |
| | 天満美智子（1998）『新しい英文作成法』岩波書店 |
| | Strunk Jr., W., & White, E. B. (1999). *The Elements of Style, 4th ed.* Longman. |
| 9 | 語彙指導について学ぶ・考える |
| | 門田修平・池村大一郎（2006）『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店 |
| | 中田達也（2019）『英単語学習の科学』研究社 |
| | 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 (2003)『英語語彙の指導マニュアル』大修館書店 . |

| | |
|---|---|
| 10 | 文法を学ぶ |
| | 田中武夫・田中知聡（2014）『英語教師のための文法指導デザイン』大修館書店 |
| | 荻野俊哉（2008）『英文法指導 Q&A—こんなふうに教えてみよう』大修館書店 |
| | Murphy, R. (2015). *English Grammar in Use*. Cambridge University Press. |
| 11 | フォーカス・オン・フォーム、文法 |
| | 和泉伸一（2016）『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』アルク |
| | 和泉伸一（2009）『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』大修館書店 |
| | 髙島英幸（2010）『英文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』大修館書店 . |
| 12 | 発音や音声に関する知識と説明力を伸ばす |
| | 靜哲人（2019）『発音の教科書—日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』テイエス企画 |
| | J. C. キャットフォード（著），竹林滋他（訳）（2006）『実践音声学入門』大修館書店 |
| | 高山芳樹（2019）『最強の英語発音ジム—「通じる発音」と「聞き取れる耳」をモノにする』アルク |
| 13 | 言語の使い方について学ぶ・授業での説明のヒントを探る |
| | 高橋朋子（2016）『相手と場面で使い分ける　英語表現ハンドブック』アルク |
| | 石原紀子（2015）『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』研究社 |
| | 東照二（2009）『社会言語学入門:生きた言葉のおもしろさに迫る（改訂版）』研究社 |
| 14 | テストのあり方について学ぶ |
| | 吉田新一郎（2006）『テストだけでは測れない！ 人を伸ばす「評価」とは』日本放送出版協会 |
| | 小泉利恵（2019）『英語 4 技能テストの選び方と使い方－妥当性の観点から』アルク |
| | 根岸雅史（2017）『テストが導く英語教育改革』三省堂 |

| | |
|---|---|
| 15 | テストの作り方を学ぶ |
| | A. ヒューズ（著），靜哲人（訳）(2003)『英語のテストはこう作る』研究社 |
| | 若林俊輔・根岸雅史（1993)『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る―正しい問題作成への英語授業学的アプローチ』大修館書店 |
| | L. F. バックマン•A. S. パーマー（著），大友賢二•R. スラッシャー（監訳）(2000)『実践 言語テスト作成法』大修館書店 |
| 16 | 小学校英語について考えてみる |
| | バトラー後藤裕子（2015)『英語学習は早いほど良いのか』岩波書店 |
| | 大津由紀夫（編著）(2004)『小学校での英語教育は必要か』慶応義塾大学出版会 |
| | 岡秀夫・金森強（2012)『小学校外国語活動の進め方―「ことばの教育」として』成美堂 |

**謝辞**

本研究は、当初、故原口友子教授への科目の引継ぎを兼ねて行われることが決まり、原口教授から貴重なアドバイスも頂戴した。ここに感謝と追悼の念を表する。